婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

大正九年三月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年五月二十三日印　納本

社會正義と幸福

雄辯と情緒

偉大なる女性エレンケー

女史の生命の宗教

戀愛の自由と人道

人間的純な生活

私の希望

英斷出でよ

每月一回一日發行　第七十五號　大正十五年六月一日發行

社會正義と幸福

正義に關するいろ〳〵の解説はありますけれども、併し、其の正義の基礎となつてゐる原則に付ての充分なる説明はまだありません。云ひ直せば正義に關する哲學的な即ち根本的な定義はないのです

が、思ふに、正義とは不平等な狀態に生れてゐる人々を人爲的に平等にすることでありませう。

たとへば、强い者が弱い者を虐げようとする乃至搾取しようとする時に、社會の力が其の強い者を取つて押へ、其の弱い者の味方になる　云ふように。

そして、さうすることは、今は、文明國の普通の政策になつてしまつてゐます。

なぜなら、生れながらに持つてゐる優秀な知力と力とによつて得た結果を獨占し、專斷に使用しようとする權利の主張は、昔、野蠻時代に腕力の強い男が最も美しい婦人を手に入れ、收獲の全部を獨占しようとしてゐたのと同じですから

文明の進歩と共に社會はさう云ふ自然的な獨占的な權力に反對し、干渉し　そして、全然、人爲的なる制度則ち對世的(シヴィック)法律的乃至政治的正義と云ふものを設定しました。

で、それ等の正義の力は偉大であつて、其の力によつてツイに道德的進歩を增進するやうになりました。そして、其の結果は對世的、法律的、及び、政治的の不平等は可なり除去され、人命財產は或る程度迄安全になりました。

けれども、社會にもう一つの正義を設定しなければなりません。そして、それは社會正義です。

社會正義と云ふことは、貧富の區別はあつても一般人に幸福を與へようとする。つまり、幸福の社會化です、そして、幸福を社會化する必要條件は各人が社會的に自由であること、社會が倫理的であること、猶、云ひ直せば感情の滿足と云ふことです。

で、感情の滿足があるか無いか、則ち、生活が幸福であるか、不幸であるかの分れ目は、感情の源である社會狀態、則ち、環境を正しく見るか見ないかによります。

社會狀態が感情を生み、感情が觀念を生み、其の觀念が結晶して社會思想となり、そして、此の社會思想によつて動くことが社會運動であります故に、社會狀態、則ち、環境を公平に正視することが幸福の第一條件であります。

雄辯と情緒

一

英國の大政治家が英國議會の壇上に立つてものを云ふ時には、それは英國に向つて云つてゐる計りでなく同時に世界に向つて云つてゐるのだと云ふことはよく聞いて居る處です。

その意味に於て私は家庭に於て娘に向つて云つてゐることは世間一般靑年女子に向つて云つてゐることであり男の子供に向つて云つてゐることは世間一般靑年男子に向つて云つてゐることであらねばならぬと常に心がけて居ります。

自分の國のためを思ふと同時に世界各國の利害をも考へる。我が家庭、我が子のためを思ふと同時に世間一般の家庭及び子供達の利害を考へると云ふのが本當の行き方でありますから。

家庭內に於て云ふことゝ世間に向つて云ふことは同じでありますが、併し一人二人の我が子に對してもの云ふ時と、世間に對してもの云ふ則ち數百乃至數千の人々に向つてもの云ふ時とは其處に氣分の違ひがあるのは止むを得ません。そこで雄辯術と云ふようなことが考へられるのですが、と云つて私は所謂雄辯術と云ふものを採用したくありません。

實に從來の雄辯術は身振り手振りを巧みに用ひて居て、まるで踊りを見るようでありますが併し、踊りと間違へるような演說は演說として成功したものであるとはどうしても考へられません。踊りは踊りの領分にまかせて置いて演說は演說らしくしたい。つまり、話す術よりも內容の則ち思想の豐富を心掛けたいと思ひます。

二

　先づ世界的に雄辯家のうちにいつも加へられる人物は英國のバーク、米國のウエヴスターでありますが、これらの雄辯家の概念の技巧的なこと、引用語の選擇の巧みなこと、章句が實に適切でみがき上げられてあることは驚くの外はありませんが、併し、それは彼等の雄辯の心髓ではなくて副產物です。字句や技巧がどんなに熟練の極に達したからと云つてそれが直ちに雄辯ではありません。バークやウエヴスターの眞の大雄辯が誰でもそれを聞くものをしてどうしても從はさしめずには置かなかつたのは其處にさうしなければならぬ事實があつたのです。

　こう云ふ本當の雄辯家でなくても、僞せの雄辯則ち唯言葉だけの雄辯でも人を說得する場合があります。けれでも眞の雄辯と僞せの雄辯との違ひは丁度發見或ひは發明と手品との違ひがあります。僞せの雄辯は手品と同じく一時は聽衆を魅してしまふけれども、併し、其の場だけで聽衆の頭には何にも殘りません。それに反して眞の雄辯は發見乃至發明と同じく永久に或るものを人の心に殘します。

　又、これを裁判所にたとへて云ふと、もし、そこに充分の具體的な證據があつて辯護士が其れを立證するとしても其の辯護士は眞の雄辯には云はれません。具體的な證據が絕對の眞理を語るものではない。道德的には充分に有罪と認められても直接の證據が無いために罪を免れたり、或ひは、積極的の證據があるためにたとへば僞證文のようなものがあるために免れなかつたりする。

　さう　ふ場合にその倫理的の方面を法律化したり、何等手がゝりのない事件に對して手がゝ

りを見出したり、普通人の目には無である處に有を造り出し其處に道德的意義或ひは不道德的行爲を具體化する、そして、そこに新らしい證據を造り出し、法律的に保護したり又は罪を免れようとする罪人を罪に服さしめたり、つまり一[illegible]說的に組み立てた證據によつて一事件を立證したり反證したりする、云ひ直せば、いつもものゝ中心に這入つて行つて內部から、その證據の如何に拘らず、眞相を明らかにし正義を光らさしむるのが辯護士の腕であり、そして、それが雄辯の力だと私は考へてゐます。

ウエヴスターが取り扱つた事件のうちにジョセフ・ホワイト逆殺事件と云ふのがあります。その時には證據物件と云ふものは殆んど何にもなかつたのです。で、とうてい有形な證據からは何ものをもつかめなかつた。けれども、ウエヴスターは此の事件を研究するに人情を中心とし、人情を水先き案内として人はどう云ふ風に動き、どう云ふ風に苦しむかと云ふことを明らかにし、そして、ツイに被告を服罪せしむるに充分なる具體的な證據の代りに道德的の證據を法廷に提供したのでした。

雄辯の力は此處にあります。虐げられてゐるものを救ひ上げたり、何等理由なく傲慢にふるまつてゐるものを押へつけたり、弱いものを救けたり、今も云ふ通り寃罪に苦しんでゐるものを保護したり、有罪でありながら免れようとするものを服罪せしめたり、衆をたのんで小數の正義者を陥れたりする者に對抗したり、金力の跋扈を制限したり、つまり、普通の手段ではこれが法律であれ政治であれ到底勝算のつかない場合い、何となれば、充分な證據や金力や數に於てかためられてゐる．併し 道德的にはここまでも不正である場合い、即ち非常な片手落ち

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に對し逆行して勝利を得ようとする唯一の武器は雄辯であります。

こう云う場合ひ、どうして、辯說一ツを持つて勝つことができるかと云ふとそれは雄辯の力をもつて多數の人情の中心に觸れるからです。猶、云ひ直せば、人の心に充分に這入つて行つて內部から說破するからです。戰爭で云へば外側からはとても打てないよぅな大軍でも內部からならば極めて容易であるように。

不正なことゝ云へば人情にそむいたことであるに相違ない。けれども外面だけは如何にも人情にかなふようにつくろつてあるのですから、其の外側を見ずに內部からその不人情を責むるならば、その人情に對して不人情は何等の力がない筈です。要するに眞の雄辯なるものはいはゆる雄辯を要しません。無言の雄辯と云ふことさへあります。ですから、雄辯の心髓は人情に徹することです。猶、云ひ直せば人間を本心に立ちかへらせる力です。猶云ひ直せば、人間を俎上に載せて全部試驗して、そして、いゝ處をいゝとし、惡い處を惡いとし、いゝ處を奬勵することです。

三

論旨が明晰とか順序がどうとかよく云はれますが、併し話す論旨なるものは建設されるものではなく人情の自然の流れでなければならぬ筈です。そして、流すものでなくて流れ出づるものです。一言で云へば、雄辯と云ふことは人情の哲學であり人情の論理です。人情を言葉でゑがいた繪である筈です。ですから、どこ迄も人情をはなれては本當の雄辯にはならないのです。

故に、雄辯家は人間の生活に最も直接な關係

を持つものです。もう一度裁判所を例にとりますが裁判所で云ふと高等法院のようなもので人間の苦痛の最後の訴へ場所であるのです。ですから雄辯家にとつて必要なものは學問よりも修辭よりも何よりも眞心の持ち主でなければなりません。自分をかゞみとして、人を寫し、人の正邪を自分を通して眺めさせることです。其處で雄辯家とは眞心の持主の絶叫であり、もし言葉となつて現れなければ瞰むだけでも有効である位ひです。

ウエヴスターに付てもう一言云つて置かなければなりません。英文讀本にあつて誰でも知つてゐる小年時代のウエヴスターが彼の兄エザキエルと畑を荒したもぐらもちを被告とし父親を裁判官として辯論した一場面は甚だ幼稚な子供の話には相違ないのですが、併し、此の兄弟の辯論のうちに眞の雄辯は決して理智ではなく、眞心であり、人情であると云ふことの大眞理を教へてゐます。

四

グラドストン夫人が始めて演壇に立つたのは夫人が七十五歳の時でありました。夫人は彼女の良人グラドストン氏にとつては無くてならない相手であつたと云はれてゐます。ですから、夫人は英國の歴史にその名を不朽に殘したグラドストン氏の永久のそして無限の感謝を受けてゐます。夫人は良人グラドストン氏に云はせてゐます。「もし、キヤサリン――夫人の名――の身の上に何事か起るならば私の一生はもうそれで終りである」と。

一八三九年七月二十五日の結婚の日からグラドストン氏の死まで夫人は常に彼の傍にあつて彼の守り神の役目をつとめてゐました。夫人は

彼のために家を納めそして家庭の外部からも內部からも夫の冷靜な頭をみだすようなことが起らないように努めてゐました。起つても彼の耳に入れないように努力しました。のみならず、グラドストン氏が政治運動に出かければいつも付き添ふてゐて、議會で氏が重要な演說をする時にはいつも傍聽席へ行つてゐました。そしていつも同じ場處に坐つて夫の演說を見守つてゐる眞劍な其の顏を一度見た人は誰でも忘れることは出來ないと云はれてゐます。夫人の良人に對する同情、同胞を思ふ眞心が七十五歲の高齡に達してゐるにも拘らず夫人をして始めて演壇に立たしめたのでした。そしてそれは『婦人自由黨聯盟』の創立の時であつたのです。彼女の聲は會場の隅々迄は屆かなかつたそうですが、併し此のたよはい美しい聲の老婦人が立ち上がつてそして婦人が爲し能ふ仕事、婦人が社會改良のために働かし得る愛情に付て話した時には聽衆は無限の同情を感じ、勿論夫人の意見に贊成して、そして、夫人は「婦人自由黨聯盟」の會長に押されたのでした。

五

私共婦人は今や夫婦親子から成つてゐる小さい範圍の家庭にのみ自分の視野を限つては居られない時代に到達しました。少なくとも自分の家庭を抱擁してゐる社會を自分の家庭の延長として見なければならなくなつてゐます。そして場合によれば此の文の始めに述ましたように、自分の家庭に於て我子に又は我が夫に向つて云ふことを直ちに社會の子供に社會の夫に向つて云はなければならない時があるに相違ないのです。

その時には、當然、雄辯術も必要であります

が、併し、私は婦人は雄辯のための雄辯ではなく、夫に對し子供に對する眞心と同じ眞心を社會に對して披瀝し得れば足りる、つまり身ぶり手ぶり澤山に大聲でどならなくても愛する夫や子供に對してもの云ふように、先づ、理想を云へば、地を潤す春の雨のようにゆたかな思想をもつて聽衆を潤し得るような調子でありたいと思ひます。

實に雄辯の心髄が同情にあるとすれば、生來男性よりはより多く同情に富む女性の方がより雄辯である筈です。

つまり、私は婦人の雄辯を女性の情緒に見出そうとするものです。

偉大なる女性エレン・ケー

女史の生命の宗教

衣食の料の缺乏に常に苦しめられ通しであつて、精神的のことを考へるいとまなどはチリ程も持たない寒村に育つて、稍、長じては所謂町家に生活した私は、物慾と性慾の外には何にも持たない人間のみを見てゐました。

男性の旺盛な性慾のために、云ひかへれば、不品行のために悲慘な状態に陥れられる家庭や物慾のため心にもない媚を男に呈する女や、とにかく、肉慾、物慾にのみ蠢動してゐる淺間しい生活のみを見せつけられてゐたのでした。

そして「一體、これが人間の本當の姿か？

もし、これが人間の本當の姿だとすると、人間

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は人間以下の動物よりも遙かに劣等である。なぜなら、動物の生活を見てゐると、動物は物慾のために僞りの愛慾を表白したり詭計を弄したりしない」など考へて居ました。

さう云ふことを考へてゐる時分でした、或る時、不圖、街上にて、私は、まツ黑な絹服をまとふたすきとふるように白い顏のキャソリツク敎の尼僧を見ました。

そして、此の尼僧の姿は暗い私の心に鋭い閃光でありました。暗闇に燈火を見出したと云ふのは私の其の時の心持ちでありませう。

「成程、さうだ！　修養の仕方によつては人間はあゝ云ふ風に高尙になり得るものだ！」と私の心は躍り上がりました。

物慾、及び、性慾の一切を洗ひ落した、淸淨其のものゝようなあの顏、人間の標本としてのあの姿「人間は凡てあゝ云ふ風にならなければならないのだ。あゝ云ふ人間が此の地上に存在する限り、我々人間の進み行くべき目標は與へられた、精神的に向上し得る可能性は明らかになつた！」と私の心は叫びました。

それは私の二十四歳の時でありましたが、其れが所謂私の精神的の目覺めであつたのです。私は、其の貴い、神の子とも思へる尼僧の姿を常に心に描いてゐて、ひたすらに精神的向上をのみ心がけて、ものに關する、又は、肉體に關することの凡ては汚れたものと考へ、もし、其處に或る矛盾を見出した時には一途に其れは修養の不足と云ふ處に歸してゐました。

要するに、無精神的生活の淺間しさにあきれ果てゝゐた反動で、私の心は精神を偏重するようになつたのです。從つて、私の結婚觀は曲がんでしまいました。性的關係を唯々汚れたものと考へるようになりました。プユリタンの乃至

プラトニックの生活が私の理想となつてしまつたのです。

さう云ふ考へ方、さう云ふ生活は悪でないとしても、併し、偏頗したもの、從つて幸福でないと云ふことは人生に眞面目な經驗を持つた人は誰でも承知してゐるのですが、併し、何にでも熱し易い、思慮の足りない若い時分の私としては止むを得ないことであつたのかも知れません。

處で、私の其の偏頗した心の壁を打ち破つたものはエレンケーの「生命の宗教」でありました。

「精神は神に屬するものである故に美しいと云ふならば其の精神に屬する肉體も亦美しいものであらねばならない。肉體に包まれてゐる精神が美しく、其の肉體が汚たないと云ふ道理はない」

と云ふケー女史の言葉は私のためには、丁度氷雪のためにかたく〳〵凝結してゐた土の上に投げられたなごやかな春の光りでありました。

云ひかへれば、現實の生活に對してかたく閉ざしてゐた私の心の扉は女史の溫い手にノックされて開き、たましいの殿堂としての肉體の生活をも尊重し、いたはるようになつて、則ち、「肉體に裏切られないたましいの生活、たましいに虐待されない肉體の生活」が始まり、かくして生活がまどらかになり、心身共にすこやかな發達の過程に入るようになつたのです。

エレン・ケーの「生命の宗教」の感化によつて生活をゆたかにされ、幸福に蘇みがへつた人が此の地上に何人あるだらうと考へる時に、實に、女史に對して、偉大なる女性、人類の慈母と云ふ感を益々深くせずには居られません。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

戀愛の自由と人道

エレン・ケーの名は今や全世界の文明國の思想家の間には益々認められて、人道の最高發展のために女史の思想が如何に重大意義を持つてゐるかゞ益々明らかになつて來てゐます。

我が國に於ては、エレン・ケーの名を單に知つてゐる位ひな人にとつては、ケー女史は自由戀愛の鼓吹者でありますし、可なり進んで了解してゐる人で、女史を戀愛革命者つまり戀愛に對する態度の革命提唱者だとしてゐます。

勿論、女史は戀愛を徹底的に哲學的に且ツ社會學的に取り扱つた最初の人であつて、戀愛生活を重要視してゐることも事實で、實に女史は戀愛生活を殆んど宗教生活と同一視してゐるのですが、と云つて女史の戀愛尊重は所謂戀愛至上主義者の戀愛其のものを目的としてゐるのではなく、戀愛を尊重する目的は外にあるのです。

ケー女史は人類の進歩のため、人道完成のために戀愛の自由を高唱したのです。

ですから、女史の文章中、戀愛問題を取扱つた部分は全文中の二十分の一程もないと云はれて居りますし、又、女史自身も其れを公言して居ります。

女史の「生命の宗教」とは「愛の宗教」とも云はれるものであつて、女史は心靈を、同時に生命を愛します。禮讃します。擁護しようとします。純眞其のものであるかのような思想の持主である女史、生命を愛し、禮讃する女史が、其の生命を虐げ害する世の中の醜惡なるものに對して人一倍敏感であり、どんなに其のたましいを戰慄させたか、そして、如何にせば其れ等の醜惡なるものを除去し、不幸を少なくし得るかを考へたであらうことは想像に難くありませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ん。
其處で、エレン・ケーが着眼し得た點は生命の始まりである戀愛を神聖に保たなければならぬと云ふことです。
人間社會に美を創造し、幸福の增大をもたらすような人間は純粹なすなほなたましいの持主でなければならず、そして、さう云ふたましいは健實であり、情味ゆたかな兩親の間に生れる子供にのみ賦與されるものであり、そして、さう云ふ健實な情味ゆたかな夫婦は戀愛を基礎として結婚した夫婦以外の夫婦には望めないことだと云ふのです
其處で、女史の云ふ戀愛の自由は種族の善のため人道完成のためであるのです。
戀愛至上主義者は戀愛其れ自身を目的としてゐるに反して、愛の宗教、生命の宗教を說く女史は、人生の進化發展の無限なるを信じ、より完全なる人類の創造を目的とし、そして、其の目的に達するために人間の最も深き本能に根ざしてゐる戀愛に着眼しました。
そして、長い間、個人の幸福と社會の幸福との衝突は止むを得ないことゝし、衝突した場合には個人の幸福を犧牲にし、義務の觀念の下に服從を强ゆるのが習慣であつたに反して、ケー女史は、人生の進化發展とより完全なる人類の創造は個人の最高なる幸福が其の根源であると喝破し、かくして、種族の善のための根本的要求と個人の幸福のための要求とを、則ち、戀愛と結婚との一致點を見出したのです。
勿論、ケー女史の議論にも、他の偉人の議論にもあるように或る矛盾があります。今、それを書く餘白がありません。と云つて、それは斷じてケー女史の價値を減少するものではありません。赫灼として輝く太陽の面に僅かばかり

の黒點があつたからと云つて其れが太陽の光り其のものに少しの影響らないように、女史の議論のうちの僅かばかりの缺點は、あの偉大なる人格、愛情のあふるゝあの女性らしいたましいの光りに少しの曇りをももたらしません。

人間的純な生活

戀情を讃美し、人生を熱愛し、子供を尊重し人類の慈母として世界中から慕はれながら、自分では一人の人間の生理的の母とはならなかつたケー女史に對して『尼僧』と云ふ言葉が度々用ひられてゐます。生涯を獨身で通して、清く高く純潔な生き方をしたからです。けれども、それは從來の禁慾主義者の獨身生活とは違つて戀愛を重大視し、結婚を神聖視すればこそ、安價な容易な氣持ちで異性に向ふことは出來なかつた、つまり、それは自分の主張に忠實であつ

たことの證據だとも考へられるのでありますがとにかく、女史に對して聖き『尼僧』と云ふ觀念は誰でもが持つたものと見へます。

女史の傳記を見ても『概して暗い簡素な衣服と滑らかな尼僧のような髮』とか、又は『女史は生れながらの雄辯家である。彼女が講堂に入る時、何となく女僧らしい氣品が現れる』とか云ふ言葉が散見されます。

物質慾、肉慾のために目がくらんで同胞相食むと云ふ狀態にある大衆を導いて或る程度の水準に迄、云ひかへれば精神的要素が光つてゐる生活にまで、引き上げて行かうとするものが佛敎であり、基督敎であり、忠孝であると私は考へますので、それ等の敎へは此の生活からあの生活に行く橋に私はなぞらへてゐます。

それ等の橋のうちのどの橋を渡つても行き着く先きは皆同じで、則ち、各人に與へられた位

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

置を通して消極的の及び積極的の義務を完全に果し得る生活を營み得るようになる。そして、ケー女史は、それ等の橋にもう一ッの橋を附け加へた。則ち、エレン・ケーに對して私は「生命の宗教」を建設した尼僧と云ふ觀を益々深くして居ります。

私の希望

愛の使徒、女性の典型、人類の慈母としての女史の靈感を受けることによつて私は私自身のたましいが成長して行くのを意識してゐました

今や、女史は七十七年の此の地上の營みを十二分に成し遂げて、最後の目をつむる迄も愛慕しつゞけてゐたであらう女史の父母、祖父母及び其の他女史の愛した人々の靈と合するために此の地上から消へて行きました。

だが、私は悲しむのをやめませう。

女史の純眞な思想が私のゆがんだ結婚觀を矯正し私の生活を幸福にし、且ツ、女史の靈の力が私のたましいの成長を助けたと同じように、女史の遺業は今後も無數の人の生活を幸福にし無數の人のたましいの成長を助けてやむ時が無いと云ふことを私は信じますから。

そして、私自身の此の地上の營みが終つた時には、貴く聖い女史の靈にまみゆることが出來るような價値あるものと自分がなつてゐるように私は努力をつゞけようと思ひます。

英斷出でよ

公娼は國民の私生活の梅毒であるのみならず、國家機關のためにも亦梅毒であるといふことは松島遊廓事件が十二分に立證してゐます。

公娼は又淫卑な空氣を遊廓から周圍に放送すること

によつて私娼を釀造しつゝあるものです。

内務當局が警察部長會議に公娼制度に關する諮問を發したといふ。そして、姑息な公娼制度改善を行ふことに決定したといふ。そして、「時事新報」の「時事小觀」子（五月六日同紙夕刊）までがそれに賛意を表して居られるに至つては實際沙汰の限りです。

小觀子はいふ。「慾望安全瓣を失へる社會は必然その膨脹の壓力を家庭の子女に及ぼさぬか」と。

村の多くの娘達の安全を計るために毎年一人づつ娘が人身御供にあげられたといふ昔の物語りがありますが、私達は一人の娘を人身御供にあげるよりもそれを要求する魔物を退治したいです。一人の娘をも魔物の食物にしたくはないのです。

松島遊廓事件は既に何十萬圓の收賄があり、その上に遊廓移轉成功の曉にはある政黨へ百五十萬圓提供の契約があつたといふことです。

劣等な人間共に不正を働かすために、生身を裂かれるような生活を可憐な娘達にさせたくない。また金で性慾の滿足が得られないから家庭の子女を脅かすといふようなまるで猛獸のような動物の食物に可憐な娘達を提供することは我慢がならない。さういふ猛獸は鐵の檻を造つてその中にぶちこんで置くべきです。猛獸を市中に放して置くといふようなことは文明國にはありません。

國家興亡の分岐點に際し其の難關を切りぬけ其の上に國民的進歩の一段階となつた歴史の事實はいつも英斷によつてゐます。

家族制度を國本としてゐる我國に公娼の存在はどうしても許すことは出來ない。

英斷出でよ。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

雜誌代及郵稅は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御振込みのこと郵券代用は五厘切手にて一割增廣告は御照會次第御相談いたします

大正十五年五月廿三日印刷納本
大正十五年六月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN